令和元年度　沖縄県学力到達度調査の結果

沖縄県教育庁義務教育課

１　趣　　旨

(1)　本県児童生徒一人一人の当該学年における一年間の学習の定着状況を把握し、各学校における授業改善の充実を図るために実施する。

(2)　各学年の教科分析を通して、年度末において自校の落ち込みのある領域を把握し、年度初めに前学年の学習内容の習得状況を揃えるために実施する。

２　実施期日・対象学年・教科

(1) 小学校：令和２年２月19日(水)

対象学年	教　科	対象学年	教　科
第３学年	国語、算数	第５学年	国語、算数、理科
第４学年	算数	第６学年	算数

(2) 中学校：令和２年２月20日(木)、21日(金)

対象学年	教　科
第１学年	数学
第２学年	国語、社会、数学、理科、英語

３　教科の調査結果

(1) 小学校

対象学年	教　科	児童数(人)	正答率(%)	誤答率(%)	無解答率(%)	正答率30%未満の児童の割合%（昨年度値）
第３学年	国　語	15,791	68.1	27.9	4.0	3.9 (2.8)
	算　数	15,866	70.4	27.6	2.0	2.2 (2.3)
第４学年	算　数	15,391	51.7	43.2	5.0	15.6 (7.7)
第５学年	国　語	15,429	48.0	34.6	17.4	20.6 (22.9)
	算　数	15,467	59.5	35.9	4.7	11.6 (12.0)
	理　科	15,478	52.8	43.7	3.5	13.9 (14.5)
第６学年	算　数	15,359	65.4	31.3	3.3	6.0 (7.9)

(2) 中学校

対象学年	教　科	生徒数(人)	正答率(%)	誤答率(%)	無解答率(%)	正答率30%未満の生徒の割合%（昨年度値）
第１学年	数　学	14,296	51.4	40.1	8.5	18.9 (21.8)
第２学年	国　語	13,670	59.5	29.8	10.7	5.9 (5.1)
	社　会	13,632	59.9	34.1	6.0	12.4 (26.9)
	数　学	13,557	52.7	37.9	9.4	18.1 (20.3)
	理　科	13,673	45.4	48.4	6.2	21.2 (31.7)
	英　語	13,663	56.9	39.4	3.7	14.6 (14.9)

４　結果の概要（正答率30%未満の児童生徒の割合から）

(1) 小学校

△小学校３年生算数の値が最も小さかった。
▼小学校５年生国語の値が最も大きかった。
△５科目で、昨年度値より減少した。

(2) 中学校

△中学校２年生国語の値が最も小さかった。
▼中学校２年生理科の値が最も大きかった。
△５科目で、昨年度値より減少した。

※問題内容や出題傾向が昨年度と異なっており、調査結果を単純に比較することはできないが、正答率30%未満の児童生徒の割合について昨年度値と比較を行った。

５　課題及び今後の対応

各教科の記述式の設問で、誤答率や無解答率の値が大きくなる傾向がある。その傾向を改善するために下記⑴～⑷に留意した授業改善を図る必要がある。

⑴ 単元計画に、具体的な事象や体験活動を積極的に取り入れ、児童生徒が学んだことの意義や価値を実感できる学習活動を日常化する。
⑵ 各教科で正答率30%未満の児童生徒の学習状況を客観的に分析し、フィードバックを行う。
⑶ 各学校の正答率の低い設問は、年間指導計画に位置づけ、年間学力向上サイクルの充実を図る。
⑷「条件に沿って書くこと」「目的に応じて書くこと」など、全教科体制で授業改善を図る。

各学校では、身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能の確実な定着を図り、子どもたちが様々な場面に活用する力や課題解決のために構想を立て実践し評価・改善していくような学びの充実を推進する。

６　各学年・各教科ごとの状況

（１）小３〈国語〉

小学校３年生国語は、20題の設問がある。調査実施の結果、中央値が14で標準偏差が4.1であった。

38.4％の児童が、80％以上の正答率であった。3.9％の児童が、30％未満の正答率であった。正答率80％以上の設問が、７題あった。正答率30％以下の設問が、０題あった。場面の移り変わりに注意しながら叙述を基に想像して読む問題で、誤答率が高かった。

（２）小３〈算数〉

小学校３年生算数は、20題の設問がある。調査実施の結果、中央値が15で標準偏差が3.7であった。

41.0％の児童が、80％以上の正答率であった。2.2％の児童が、30％未満の正答率であった。小学校実施調査科目で、標準偏差の値が最も小さかった。正答率80％以上の設問が、８題あった。正答率30％以下となった設問は、１題あった。数量の関係を表す式について理解し、式や言葉を用いて説明する問題で、誤答率が高かった。

（３）小４〈算数〉

小学校４年生算数は、20題の設問がある。調査実施の結果、中央値が10で標準偏差が4.4であった。

13.9％の児童が、80％以上の正答率であった。15.6％の児童が、30％未満の正答率であった。正答率80％以上の設問が、２題あった。正答率30％以下の設問は、４題あった。四捨五入したとき、その数になる範囲が分かるかをみる設問で、誤答率が高かった。

（４）小５〈国語〉

小学校５年生国語は、20題の設問がある。調査実施の結果、中央値が10で標準偏差が4.4であった。

10.1％の児童が、80％以上の正答率であった。20.6％の児童が、30％未満の正答率であった。正答率80％以上の設問が、０題あった。正答率30％以下の設問が、４題あった。文の中における主語と述語の関係を理解できることの設問で、誤答率が高かった。

（５）小５〈算数〉

小学校５年生算数は、20題の設問がある。調査実施の結果、中央値が12で標準偏差が4.9であった。

19.7％の児童が、80％以上の正答率であった。11.5％の児童が、30％未満の正答率であった。小学校実施調査科目で、標準偏差の値が最も大きかった。正答率が80％以上の設問が、５題あった。正答率30％以下の設問が、２題あった。円グラフから土地の面積を求めることができるかをみる設問で、誤答率が高かった。

（６）小５〈理科〉

小学校５年生理科は、24題の設問がある。調査実施の結果、中央値が13で標準偏差が4.6であった。

7.7％の児童が、80％以上の正答率であった。13.9％の児童が、30％未満の正答率であった。正答率が80％以上の設問が、１題あった。正答率30％未満の設問が、１題あった。グラフから水の凍りおわりが読み取ることができる設問で、誤答率が高かった。

（７）小６〈算数〉

小学校６学年算数は、20題の設問がある。調査実施の結果、中央値が13で標準偏差が4.5であった。

34.5％の児童が、80％以上の正答率であった。6.0％の児童が、30％未満の正答率であった。正答率が80％以上の設問が、６題あった。正答率が30％以下の設問が、１題あった。割合を使って、実際の量（もとにする量）を求めることができるかどうかをみる設問で、最も誤答率が高かった。

（８）中１〈数学〉

中学校１年生数学は、20題の設問がある。調査実施の結果、中央値が10で標準偏差が4.8であった。16.3％の生徒が、80％以上の正答率であった。18.9％の生徒が、30％未満の正答率であった。が80％以上の設問が、１題あった。正答率30％以下の設問が、１題あった。与えられた説明の筋道を読み取り，事象を数学的に表現することができる設問で、最も誤答率が高かった。目的に応じて数学的に説明するような設問で、無解答率が高くなる傾向がある。

（９）中２〈国語〉

中学校２年生国語は、20題の設問がある。調査実施の結果、中央値が12で標準偏差が3.6であった。15％の生徒が、80％以上の正答率であった。5.9％の生徒が、30％未満の正答率であった。正答率が80％以上の設問が、７題あった。正答率が30％以下の設問が、１題あった。中学校実施調査科目で、標準偏差の値が最も小さかった。文脈に即して、漢字を正しく読むことができる設問で、最も誤答率が高かった。文脈に即して、漢字を正しく書く設問で無解答率が高い。

(10) 中２〈数学〉

中学校２年生数学は、20題の設問がある。調査実施の結果、中央値が11で標準偏差が5.0であった。19.4％の生徒が、80％以上の正答率であった。18.1％の生徒が、30％未満の正答率であった。正答率が80％以上の設問が、１題あった。正答率が30％以下の設問が、２題あった。グラフ上の点 P の y座標と点 Q の y座標の差を，事象に即して解釈することができる設問で、最も誤答率が高かった。目的に応じて数学的に説明するような設問で、無解答率が高くなる傾向がある。

(11) 中２〈理科〉

中学校２年生理科は、20題の設問がある。調査実施の結果、中央値が９で標準偏差が4.1であった。7.0％の生徒が、80％以上の正答率であった。21.2％の生徒が、30％未満の正答率であった。正答率が80％以上の設問が、１題あった。正答率が30％以下の設問が、７題あった。激しい運動をしたとき呼吸と拍動の回数が増える理由について、学習事項をもとに自らの考えを表現できる設問で、最も誤答率が高かった。事象を科学的に考察するような設問で、無解答率が高くなる傾向がある。

(12) 中２〈社会〉

中学校２年生社会は、21題の設問がある。調査実施の結果、中央値が13で標準偏差が4.6であった。22.1％の生徒が、80％以上の正答率であった。12.4％の生徒が、30％未満の正答率であった。正答率が80％以上の設問が、４題あった。正答率が30％以下の設問が、１題あった。豊臣秀吉が後世の身分制社会の土台をつくったことについて説明することができる設問で、最も誤答率が高かった。社会科の基礎的・基本的知識について記述で問う設問で、無解答率が高くなる傾向がある。

(13) 中２〈英語〉

中学校２年生英語は、39題の設問がある。調査実施の結果、中央値が23で標準偏差が8.9であった。17.7％の生徒が、80％以上の正答率であった。14.6％の生徒が、30％未満の正答率であった。正答率が80％以上の設問が、３題あった。正答率が30％以下の設問が、２題あった。中学校調査科目で、標準偏差の値が最も大きかった。まとまりのある文章を読んで，大切な部分を理解することができる設問で、最も誤答率が高かった。条件に従って、正しく英文を書くことができるかの設問で、無解答率が高い。